

平成25年度 北灘西小学校「学力向上実行プラン」H26.3.10

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況			
よさ	漢字の読み書きや四則計算などについては、ある程度の定着が見られる。	課題	書くことに抵抗感がある児童が多く、文章を分かりやすく書くことが難しい。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
宿題や日記を毎日書かさず提出ができ、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得することができる		標準学力検査(CRT)で、知識・理解・技能の項目で、全国平均値を上回る。	7割以上の児童が、全国平均値を上回ることができた。 ----- 評価 B
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
①視写や計算の時間を設けて、継続的にドリル学習をし、定期的に定着確認テストを行う。 ②計画的に宿題を出すとともに、日記指導を充実させる。 ----- *中間期の見直し		①各単元末に定着確認テストを行う。 ②テーマを決めて日記を書き、それを学年だよりや学校だよりで紹介する。	①漢字テスト等を定期的に行い達成状況を確認することができた。 ②継続的に日記指導を続けているが、学校だより等で紹介する機会は少なかつた。
達成状況を踏まえた改善事項			
少人数という特性をいかした個別の指導のさらなる充実を図る。特に一人ひとりの学習状況に応じて補充・発展問題等を充実させる。 新聞記事の活用や読書活動を充実させる。文章の読解力の向上を図るために、読書カードを工夫し、読み取った内容への感想や意見を記入させる。			

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況			
よさ	学習発表会などを通じて、発表することを好み、方法や手順が分ると意欲的に取り組む。	課題	自分の課題や目的に応じて聞き取ったりまとめたりする力、必要な情報を選択し、筋道を立てて説明する力に課題が見られる。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
①目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを進んで話したり、書いたりできる。		①「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」(児童へのアンケート)の割合を25%以下にする。	25%以下にすることはできた。 ----- 評価 B
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
①研修により、有効な手立てを共有する。 ----- *中間期の見直し		学力向上に関する研修を学期ごとに実施する。	全国学力。学習調査やステップアップテストを検証し、研修の中で共通理解を図ることが必要である。
達成状況を踏まえた改善事項			
発表方法を工夫・改善し、発達段階に応じた表現方法を身につけさせるようにする。また、一人一人が考えたことを基に話し合い、学級で練り上げ、学び合う活動を充実させる必要がある。			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況			
よさ	ICT機器を活用した表現活動を好み、調べたことをまとめたり、発表したりする活動が得意である。	課題	家庭学習の習慣や朝の読書が定着していない児童がおり、課題に対して根気強く取り組むことにも課題が見られる
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
家庭との連携を通して、適切な家庭学習や読書の習慣を身につけさせるとともに、自ら学ぶことの楽しさを実感させる。		①「わたしは、家庭学習をきちんとしている」(児童へのアンケート)の割合を25%以下にする。	家庭学習が定着してきたが、家庭での読書習慣が定着していない。 ----- 評価 B
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
①定期的に図書室を利用し、読んだ本の冊数を記録して、読書活動に目標を持たせる ②「家庭学習の手引き」をもとに、保護者と連携して、学習習慣の定着に取り組む。 ----- *中間期の見直し		①各月の読書冊数1人10冊以上にする。 ②保護者アンケート「子どもは家庭学習をきちんとしている」の割合を80%以上にする。	①学年が上がるにつれて、物語等選ぶ児童が増えることから、達成する児童の割合が低い。 ②家庭学習は80%以上の児童が達成できている。
達成状況を踏まえた改善事項			
家庭学習の習慣は身につけてきたが、家庭での読書時間が少ない傾向にある。校内で、多様な読書活動を各教科等の指導に位置付けて指導していくことが必要である。			